

めぐみイエス・キリスト教会

2021年12月26日(日) 【10時30分】 第四主日礼拝
週報「通算第589号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌80「あめなる神には」 p. 110

【交読文】 No.14詩篇第37篇 p. 889

【賛美Ⅱ】 新聖歌77「きよしこのよる」 p. 105

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.20「天より来られし」

【聖書朗読】 第Ⅰヨハネ5章1節～5節 (p. 484)

【礼拝説教】 《神から生まれた者》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※聖書箇所(第Ⅰヨハネの手紙5章1節～5節)

5:1 イエスがキリストであると信じる者はみな、神から生まれたのです。生んで下さった方を愛する者はみな、その方から生まれた者も愛します。

5:2 このことから分かるように、神を愛し、その命令を守るときはいつでも、私たちは神の子どもたちを愛するのです。

5:3 神の命令を守ること、それが、神を愛することです。神の命令は重荷とはなりません。

5:4 神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。

5:5 世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。

●ポイント1. 「神から生まれた者」とは？

※ヨハネの福音書1章12節～13節「使徒ヨハネの証しから」 (新約p.175)

1:12 しかし、この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。

1:13 この人々は、血によってではなく、肉の望むところでも人の意志によってでもなく、ただ、神によって生まれたのである。

※エペソ書1章4節～5節「世界の基が据えられる前から」 (新約p.384)

1:4 すなわち神は、世界の基が据えられる前から、この方にあって私たちを選び、御前に聖なる、傷のない者にしようとされたのです。

1:5 神は、み心の良しとするところに従って、私たちをイエス・キリストによってご自分の子にしようと、愛をもってあらかじめ定めておられました。

●ポイント2. 「私たちの信仰」とは？

※エペソ書2章4節～8節「使徒パウロの理解から」 (新約p.385)

2:4 しかし、あわれみ豊かな神は、私たちを愛して下さったその大きな愛のゆえに、

2:5 背きの中に死んでいた私たちを、キリストと共に生かして下さいました。あなたがたが救われたのは恵みによるのです。

2:6 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちを共によみがえらせ、共に天上に座らせて下さいました。

2:7 それは、キリスト・イエスにあって私たちに与えられた慈愛によって、この限りなく豊かな恵みを、来たるべき世々に示すためでした。

2:8 この恵みのゆえに、あなたがたは信仰によって救われたのです。それはあなたがたから出たことではなく、神の賜物です。

●ポイント3. 「主イエスの約束」とは？

※ヨハネの福音書16章33節「弟子たちへの最後の教え」 (新約p.219)

16:33「これらのことをあなたがたに話したのは、あなたがたが私にあって平安を得るためです。世にあっては苦難があります。しかし、勇気を出しなさい。私はすでに世に勝ちました。」

◎先週の礼拝メッセージの概要【救い主の生まれた意味とは？】

《ベツレヘム郊外にて野宿していた羊飼いたちに、御使いが現われます。「恐れることはありません。見なさい。私は、大きな喜びを告げ知らせます。今日ダビデの町で、あなたがたの為に救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。それが、あなたがたの為のしるしです。」

当時、取税人と羊飼いは、会堂に入ることも、また安息日の礼拝にも、参加することは出来ませんでした。しかし神様は、正統的なユダヤ人ではなく、虐げられている「羊飼い」たちの所へ、御使いを送られたのです。

もしかしたら彼らは、メシアがベツレヘムで生まれる「ミカ書の預言」を知っていたのかも知れませんが、羊飼いたちは、すぐにも行動を起こします。「さあ、主が私たちに知らせて下さったこの出来事を見届けて来よう。」と。彼らは、マリアとヨセフと飼葉桶に寝ているみどりごを捜し当てます。そして彼らは礼拝します。クリスマスとは、キリストを礼拝するという意味です。

さて、救い主の生まれた意味を、改めて共に考えて見たいと思います。私たち人間は、死ぬことと死後に裁きを受けることが定められています。しかし、人は死ぬ為に生まれて来るのではありません。罪が入り込み、その結果死が入って来たのです。その罪の問題を解決する為に、身代わりとして十字架にかかって死ぬ為に、主は生まれて下さったのです。

ヘブル書によれば、『律法によれば、すべてのものは血によってきよめられる、と言って良いでしょう。また、血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです。キリストは、ただ一度、ご自身をいけにえとして罪を取り除く為に来られたのです。』と、明確に定義づけています。

そして、もう一つの理由は、神ご自身が人とはどのようなものなのか、実際に体験する為にです。しかも生まれたばかりのみどりごから、大人への成長過程を経て、人間の悲しみ、苦しみや病をも体験されたのです。それゆえ、主イエスは、私たちに慰め、助けることが出来るのです。》

◎お知らせ

※2022年1月2日(日)の礼拝はお休みします。1月9日(日)からです。

※聖書学び会・祈り会は、1月12日(水)から、各家庭にて行ないます。